

〇一一五号の時報は、今までになく読み応えがあり、躍動しようとする同志社の姿が垣間見え、頼もしく思いました。母校・同志社の発展を常に願っています。

(茨城県・高橋一樹)

〇一一五号は大学院の構想など、従来よりずっと「前向き」な記事が多く、それが何よりすばらしいと感じました。新しい学部や大学院で、新たな研究・教育を行い、日本の元気を復活させる一助となっていただきたいと思えます。また新聞などで大学の新しい研究センターの設立を目にします。こうした各研究センターの内容・目的について、特集していただければ幸いです。(長野県・間瀬敏彦)

〇一一五号、興味深く読ませていただきました。中でも大谷實総長の「人生の目的」は古希に迫る私も感動しました。また、八田英二大学長と千宗室さんのインタビュー特別編は、茶道をあまり知らない私にとっても、有意義な記事でした。お二人に深く感謝いたします。(北海道・伊藤弘)

※敬称略

Neesima Room企画展

若王子に眠る人びと — 同志社墓地 —

学内の常設展示場(Neesima Room)で第24回企画展を次のように開きます。洛東の若王子山にある同志社墓地には新島襄を始めとして今日にいたるまで100人をこえる人たちが埋葬されています。今回、関係資料や遺品、写真などを展示、紹介いたします。

〈期間〉2003年10月1日(水)~2004年2月29日(日)

〈時間〉9:30~17:00
(土曜日は正午まで、日曜日は10:00から)

〈会場〉Neesima Room
(同志社大学今出川キャンパス ハリス理化学館2階)

〈休室日〉祝日、11月29日、12月25日、12月27日~1月6日

〈入場料〉無料(事前申し込み不要)

〈お問い合わせ先〉同志社史資料室 Tel. 075-251-3042

E-mail:ji-shasi@mail.doshisha.ac.jp



女子大学史料室展示

広報で追う同志社女子大学(仮題)

同志社女学校がそのはじめての広報「同志社女学校廣告」を『七一雑報』誌に載せたのは1878(明治11)年8月のことでした。以来、2004年4月開設予定の現代社会学部現代こども学科にいたるまで、さまざまな広報活動を展開してきました。この間のシェイクスピア・プロダクション公演、音楽学科演奏会、講演会、女子大学EVE、クラブ活動などのポスターを中心に、関連写真、資料を展示します。

〈期間〉2003年11月21日(金)~2004年7月30日(金) ただし、土・日・祝日、および12月24日(水)~1月6日(火)は閉室します。

〈時間〉10:00~16:00

〈会場〉同志社女子大学今出川キャンパス ジェームズ館107

〈入場料〉無料(事前申し込み不要)

〈お問い合わせ先〉同志社女子大学史料室 Tel. 075-251-4200

廣 告

京都同志社女學校

本校例年、通九月十五日(日)から開校式入校式
望の方へ、十五日(日)来校アレ 但し校
園入校手續等ハ御申込次第郵送スベシ
明治十五年八月

『七一雑報』明治15(1882)年
8月11日掲載の広告